



# 新人看護職員研修

～コンセプト：自主・自律・健全～

関東中央病院では、厚労省の新人看護職員研修ガイドラインをもとに、卒後1年目の看護師を対象にした新人看護師研修を行っています。専門職として自ら学び続けられるような環境を築き病院の将来を担える人材を育成する教育計画を立てています。

入職後3か月は毎週1回の集合研修があります。その後の1年間は1ヵ月に1回～2回の集合研修と手術室や救急外来などの特殊な部署をローテーションで見学する研修を行います。

前期集合研修では講義や演習が主となりますが、そのカテゴリーは看護技術から目標管理、基本姿勢と人間関係能力など多岐に亘っています。まず看護部長より将来自分がなりたい看護師像について考える講義を受け1年後の自分を描き、目標を持つことの必要性について学びます。その後、初期に習得する基礎看護技術研修に入ります。注射や点滴、与薬、フィジカルアセスメントという身体の観察技術、感染対策、褥瘡（とこずれ）予防、さらに患者さんにも看護師にも負担にならない患者さんの安全な搬送や移動の方法などについて演習を通して学びます。また、3か月ごとに振り返りやメンタルサポートを実施しています。

後期になると「SBAR」という、先輩看護師や医師に的確で効果的な報告をするための情報伝達シミュレーション研修を行います。これは医師も参加し、シナリオを作成して演技をしながら楽しく学びます。現場で厳しさが増してくるこの時期には、研修の堅苦しさが疲弊につながらない工夫が求められますので良い方法であると考えています。

現在、入職から5か月が経過し、先輩看護師の支援を受けながら日勤でも夜勤でも複数の患者さんを受け持つようになりました。現場で見かける新人看護師は、不安や笑顔が入り混じりながらもきびしさに適応した表情に変化しています。患者さんとの関わりを振り返る内容には「今日はあなたが受持ちでよかった」と言われて自分が行った看護にやりがいを感じている姿などが見え、頼もしく思います。これからも新人看護師が「看護という世界に入ってよかった」と思える日を重ねて、輝いていけるように大切に育みたいと考えています。

（副看護部長 福田 博子）



BLS（一次救命）研修ではAEDの使用を体験します



安心して現場で実践するために模型を使って演習します



振り返りの発表～テーマ「今ががんばりどき！  
焦らないで看護を楽しもう」



万が一の災害に備えて防災訓練に参加します